

平成 23 年度全国学力・学習状況調査結果の概要

喜茂別町教育委員会

平成 23 年度は東日本震災の影響で従来どおりの実施は見送りとなり、希望校だけを対象に問題冊子が配布され、本町では 3 校で実施しました。道内では、札幌市を除く 178 市町村で調査が実施されました。実施校の全国的な集計は行われません。
本町の調査結果の概要は、次のとおりです。

1 調査の概要

(1)調査日 平成 23 年 9 月 27 日(火)

(2)調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、本町の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。

(3)調査内容

学年	①教科に関する調査		②生活習慣等調査
小 6	国語 A・B、算数 A・B	A 問題⇒主として「知識」に関する問題	学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する質問紙調査
中 3	国語 A・B、数学 A・B	B 問題⇒主として「活用」に関する問題	

2 教科に関する調査結果

(1) 小学校6年生

《国語A》（主として「知識」に関する問題）

国語A		平均正当率	
		北海道(%)	喜茂別町
全体		73.1	↓
領域	話すこと・聞くこと	93.1	↓
	書くこと	59.7	↓
	読むこと	72.5	↓
	言語事項	71.6	↓

《国語B》（主として「活用」に関する問題）

国語B		平均正当率	
		北海道(%)	喜茂別町
全体		36.2	↑
領域	話すこと・聞くこと	43.0	→
	書くこと	30.6	↑
	読むこと	32.0	↑
	言語事項	33.0	↑

《算数A》（主として「知識」に関する問題）

算数A		平均正当率	
		北海道(%)	喜茂別町
全体		78.0	→
領域	数と計算	78.7	→
	量と測定	69.9	↑
	図形	85.7	↑
	数量関係	79.1	↓

《算数B》（主として「活用」に関する問題）

算数B		平均正当率	
		北海道(%)	喜茂別町
全体		42.2	↑
領域	数と計算	44.1	↑
	量と測定	46.1	↑
	図形	34.1	↑
	数量関係	47.6	↑

※平均正当率喜茂別町欄の矢印は、全道の平均正当率を3ポイント以上上回っている場合は↑、3ポイント以上下回っている場合は↓、±3ポイント以内は→で表しています。ただし太字の矢印(↑↓)は、本町の平均正当率と北海道の平均正当率との乖離が、10ポイント以上あることを示しています。なお、本町では児童数が少ないため、平均正当率は公表しません。

(2) 中学校3年生

《国語A》（主として「知識」に関する問題）

国語A		平均正当率	
		北海道(%)	喜茂別町
全体		78.0	→
領域	話すこと・聞くこと	75.7	↓
	書くこと	76.8	→
	読むこと	83.2	→
	言語事項	76.7	→

《国語B》（主として「活用」に関する問題）

国語B		平均正当率	
		北海道(%)	喜茂別町
全体		62.4	↓
領域	話すこと・聞くこと	-	-
	書くこと	47.0	↓
	読むこと	62.4	↓
	言語事項	34.8	↓

《数学A》（主として「知識」に関する問題）

数学A		平均正当率	
		北海道(%)	喜茂別町
全体		54.7	↓
領域	数と式	65.3	↓
	図形	51.7	→
	数量関係	47.1	→

《数学B》（主として「活用」に関する問題）

数学B		平均正当率	
		北海道(%)	喜茂別町
全体		47.4	→
領域	数と式	62.1	→
	図形	45.9	→
	数量関係	41.5	→

※「平均正当率喜茂別町」欄の矢印は、全道の平均正当率を3ポイント以上上回っている場合は↑、3ポイント以上下回っている場合は↓、±3ポイント以内は→で表しています。ただし太字の矢印(↑↓)は本町の平均正当率と北海道の平均正当率との乖離が、10ポイント以上あることを示しています。なお、本町では生徒数が少ないため、平均正当率は公表しません。

3 質問紙調査の結果 (1) 小学校 6 年生

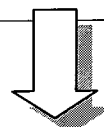
生活・学習習慣	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	普段、1日どれくらいの時間、テレビや・DVD を見たり聞いたりしますか	普段(学校が休みの日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか
	全国(H22 年度調査の数値、以下同じ)や北海道では約 70~80%の児童がほぼ同じくらいの時刻に寝ていますが、本町では 40%と低く規則正しい生活を送ることが課題としてうかがえます。 80%の児童が同じ時刻に起きていますが、全国・北海道では 90%となっています。	本町では約 40%の児童が 3 時間以上見っていますが、全国・北海道と比較するとやや少なくなっています。 また、普段、1日テレビゲームを 2 時間以上している児童は、全国が 23%、北海道が 30%に対し本町では 15%と少なくなっています。	普段 1 時間以上勉強している児童は、北海道の 40%、全国では 60%に対して、本町では約 30%と少なくなっています。また、学校が休みの日に 1 時間以上勉強している児童は約 30%ですが、北海道では 42%、全国では 55%であり、家庭学習の時間が少ないことがうかがえます。
関心・意欲・態度	自分には、良いところがあると思いますか 将来の夢や目標を持っていますか	新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか 人が困っているときは、進んで助けていますか	国語の勉強は好きですか、内容はよく分かりますか 算数の勉強は好きですか、内容はよく分かりますか
	「良いところがある」と回答した本町の児童は約 50%と、北海道と全国を 20 ポイント上回っていますが、「どちらかといえば良いところがある」を加えると、90%であり積極的な姿勢がうかがえます。また、90%以上の児童が「夢や目標を持っている」「どちらかといえば持っている」と回答し、前向きな態度がうかがえます。	本町の児童は 80%がニュースに「関心がある、どちらかといえば関心がある」と回答し、北海道や全国を 10~20 ポイント上回っています。 「進んで助けている」「どちらかといえば助けている」と 90%の児童が回答していますが、そのうち「進んで助けている」と回答した児童が北海道と全国では 25%いますが、本町では 0%となっています。	「好き」「どちらかといえば好き」という児童は国語で 60%、算数で 80%と高く、特に算数では北海道と全国より 20 ポイント近く高くなっています。 また両教科ともに 80%の児童が、「よく分かる」「どちらかといえばよく分かる」と答えている。さらに 70%の児童が両教科の勉強が「大切である」と思っている。
授業への姿勢	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか 普段の授業では、友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思いますか	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめのことに内容を理解しながら読んでいますか	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか
	発表する機会は 92%、話し合う活動は 85%が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答し、北海道や全国をそれぞれ 10~20 ポイント上回っています。主体的に学び合うことが学力向上につながっていることが、各教科の調査結果から明らかになっているものと思われます。	どちらも積極的に「当てはまる」とした児童の割合が、北海道や全国と比較して 10~15 ポイント下回っており、伝わりやすいように話すことを工夫することや、内容を理解しながら読むことを心がけることが課題と考えられます。なお、両問ともに「どちらかといえば当てはまる」を加えた児童は 80%となっています。	「活用できないか」には 46%が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えているが、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童が半数を超え、北海道や全国と比較して 25 ポイント上回っています。「ノートに書いていますか」には積極的に「当てはまる」という児童が 30%と北海道と全国より 15 ポイント低くなっています。

今後の改善ポイント

学習の仕方を学ばせ、子どもが主体的に学ぶ意欲を高める指導を継続し、基礎基本の定着を図るとともに活用する力を育てる。
自分の考えを書く力、話す力を伸ばすこと、筋道を立てて自分の考え方を表すことができる指導を行う。
家庭と連携し、規則正しい生活を送り、読書習慣と家庭学習習慣の定着を図る。

(2) 中学校3年生

生活・学習習慣	普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームやインターネットをしますか	普段、家や図書館で1日どれくらい読書をしますか 学校や地域の図書館にどれくらい行きますか	学校以外で、1日どれくらいの時間、勉強をしますか 家で苦手な教科の勉強をしていますか
	2時間以上テレビゲームをする生徒が40%と、北海道の30%、全国の約20%を上回っています。2時間以上インターネットをしている生徒も20%います。また、60%の生徒が携帯電話を所有し、40%の生徒が毎日通話やメールをしており、情報機器に触れる機会が多いことがうかがえます。	1時間以上と回答した生徒が50%で、北海道や全国を30ポイント上回っており意欲の高さがうかがえます。 図書館等に週に1回以上行く生徒が40%いて、北海道と全国を30ポイント上回っています。読書活動を推進するための環境づくりを進めていきます。	平日の勉強時間が1時間未満が60%、休日では50%おり、北海道や全国と比較して20~30ポイント高く、勉強時間が少ない状況です。苦手な教科の勉強を「している」「ややしている」が40%で、北海道と比較して10ポイント下回り、「全くしない」が40%と北海道や全国より20ポイント高くなっています。
関心・意欲・態度	難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか 将来の夢や目標を持っていますか	学校の規則を守っていますか 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	学校で友だちに会うのは楽しいと思いますか 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか
	「挑戦している」生徒が40%で、北海道や全国を25ポイント上回っています。50%の生徒が将来の夢や目標を持っており、「どちらかといえば持っている」を含めると70%となり、北海道や全国平均と同じ程度となっています。	両方とも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」とした生徒が100%です。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことか」、「人の役に立つ人間になりたいか」の質問に対する回答も同様であり、自覚の高さがうかがえます。	90%の生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しています。あいさつをすすんでしている生徒が60%と、北海道や全国より10ポイント以上上回っており、地域性とともに礼儀正しい態度がうかがえます。
授業への姿勢	あなたの学級では、学級の友達同士で話し合って学級の決まりなどを決めていると思いますか	普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか 普段の授業で、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめに内容を理解しながら読んでいますか 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか
	「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が90%で、北海道や全国を約30ポイント上回っており、学級運営が良好な様子がうかがえます。年度の重点目標である「結び合う学級」づくりが進められていることがうかがえます。	発表する機会、話し合う活動ともに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と90%の生徒が回答しており、北海道や全国よりも30ポイント以上上回っています。年度の重点目標である「高めあう授業」が定着していることがうかがえます。	国語では「当てはまる」が40%と北海道や全国を上回っていますが、数学では「当てはまる」が10%で北海道や全国を約20ポイント下回っています。無回答率20%以上の設問が国語の4問に比べて数学では7問であり、粘り強く取り組ませる指導が重要と思われる。



今後の改善ポイント

実社会・実生活に生きる力をつけさせるため、「考える力=思考力」を高める授業を充実する。
 自ら考え、学級の仲間と交流しながら「学び合い、高め合う」学びの一層の充実を図る。
 読書に親しむ時間を増やせるよう、学校図書室の充実を図るなど、読書活動を推進する。
 家庭と連携し、生活時間の見直しを行い、家庭での学習時間を増やすとともに家庭学習の内容の高めていく取り組みを進める。